

◆特集 ハイブリッド病院図書館に向けて◆

EBM関連のデータベース

山田 知子

I. はじめに

1991 年に Guyatt¹⁾ により提唱された Evidence-based Medicine (以下、EBM) の普及に伴い、膨大な医学・医療情報から、臨床医がいかに効率的に最良のエビデンスである信頼性の高い臨床研究報告を得るかが課題となっている。エビデンスを探すために、批判的に吟味された臨床研究報告を検索するための EBM 関連の各種データベースが発行されている。

本稿では、臨床で生じた疑問を解決する際、目的にあったデータベースを選択するのに参考となるよう、個々の特徴などを述べていく。

II. 現状

臨床医は診療中に生じた疑問に対し、約 30% しか答えを得ていないと言われている。Smith の報告²⁾によると、診察中に生じる疑問に関し、その答えを他の医師に求めることが最も多いという。臨床医は情報収集にかけられる時間はせいぜい 10 分程度³⁾と言われている中、疑問を解決する十分な時間がないのも現状である。このような状況の中、EBM の実践において、図書館員は適切なデータベースを選択、検索することを通して、臨床医をエビデンスに結びつけるという役割を担うことが求められている。

ここでは、EBM 関連のデータベースから、筆者が実際に使用したことのある

The Cochrane Library、Clinical Evidence、ACP Journal Club、UpToDate、MEDLINE をとりあげ、それぞれの特徴を紹介する。

III. EBM関連のデータベース

1. The Cochrane Library⁴⁾

The Cochrane Library は、コクラン共同計画が提供するデータベースで複数のファイルから構成される。コクラン共同計画は、1992 年に英国の国民保健サービス (National Health Service : NHS) の一環として開始された医療評価のプロジェクトである。世界中の臨床試験を対象として、ランダム化比較試験 (Randomized Controlled Trial、以下、RCT) を中心に、システマティック・レビューを作成し、医療関係者や消費者に届け、治療や予防についての合理的な意思決定に役立てることを目的としている⁵⁾。RCT や Controlled Clinical Trial (CCT) はエビデンスのレベルの高い研究デザインとされている。システマティック・レビューとは、文献を網羅的に収集し、質の評価を行い、統計学的に統合したもの、つまりエビデンスをまとめて伝えるものである。

更新頻度はいずれも年 4 回で、提供方法はインターネットと CD-ROM がある。

(1) The Cochrane Database of Systematic Reviews (CDSR)

The Cochrane Library の中核をなすデータベースが CDSR である。

この CDSR はシステマティック・レビューと計画中、あるいは進行中のレビューを収録し

YAMADA Tomoko

東京慈恵会医科大学医学情報センター図書館
tomoko@jikei.ac.jp

たものである。そのため、システムティック・レビューが収録されていない疾患に対しては検索しても結果が得られない。

CDSR は特に治療や予防に関する疑問を解決する際に有効である。

常に見直しがされ、更新のたびに大幅な内容の追加がされる。

MEDLINE と比較し約 4 ヶ月のタイムラグがある⁶⁾。

(2) CDSR のほか次のデータベースがある。

① The Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL/CCTR)

CDSR に収録されるシステムティック・レビューのもととなる比較臨床試験を MEDLINE や EMBASE、さらにハンドサーチなどによって網羅的に収録するデータベースである。CENTRAL は RCT の可能性のある論文を登録したデータベースで、CCTR はそれが RCT と確認された時に登録するデータベースである。

② The Database of Abstracts of Reviews of Effectiveness(DARE)

英国のヨーク大学の NHS Centre for Reviews and Dissemination で一定のふりかけられたもので、構造化抄録で記載されている。構造化抄録とは、目的・デザイン・方法・結果・結論などの項目で、内容を簡潔にまとめた抄録のことである。

③ The Cochrane Methodology Register

システムティック・レビューを行うための方法論が書かれている。

2. Clinical Evidence⁷⁾

British Medical Journal (BMJ) と American College of Physicians (ACP) が共同で作成した一般医向けの EBM 情報で、臨床上のトピックスごとに最新・最良のエビデンスを要約したものである。

そのトピックスにおいて、治療などの推奨はしないで、あくまでもエビデンスのみを提供している。

更新頻度は、年 2 回で、提供方法はインターネット、CD-ROM と冊子がある。

MEDLINE と比較したタイムラグは、約 1 年である⁸⁾。そのため、最近のトピックスに対しては情報を得ることができない。

3. ACP Journal Club⁹⁾

主要な臨床医学雑誌からトピック性が高く、臨床に有益な最新の研究を選択し、構造化抄録として要約したもので、専門家のコメントと参考文献もつけられている。つまり、論文の要点を押さえ、要約を短時間で読むことができるものである。

更新頻度は年 4 回で、提供方法はインターネットと CD-ROM がある。

MEDLINE と比較すると約 6 ヶ月のタイムラグがある⁹⁾。

4. UpToDate¹⁰⁾

医師が医師のために作った臨床支援のデータベースで、現在、米国やヨーロッパで急速に普及してきている。

臨床現場で生じる疑問に答えることを主眼としているため、想定される 5,000 以上の臨床上の疑問に対する指針を用意している。各専門領域の医師が、審査の通った十分なエビデンスレベルの論文からウェブ情報も含め、現場で役立つ情報をもとに、診断、治療、予防の指針を提示し、エビデンスに基づいて論理的にまとめられている。はっきりしたエビデンスが存在しない場合は、その専門家の経験に基づく意見が提供されているため、エビデンスレベルの高い情報のみを収録しているデータベースと比較すると、情報が得られず困ることは少ない。また、最近の疾患などに関しても何らかの情報が得られる可能性が高い¹⁰⁾。そして、専門外の疾患についても教科書的な知識が得られるようになっていく。

データは年 3 回更新され、毎回、全体の約 30% の内容が改訂される。提供方法はインターネットと CD-ROM がある。

5. MEDLINE¹⁰、PubMed^{12,13}

MEDLINE は米国国立医学図書館 (National Library of Medicine : NLM) が作成する医学文献情報の代表的なデータベースで、世界約 70 カ国、4,500 誌以上が収録されている。1966 年以降の 1,100 万件以上の文献データが検索可能である。一方、PubMed は、1997 年にインターネット上で無料で公開された MEDLINE の検索システムである。

PubMed は EBM に対応した機能として Limits や Clinical Queries を装備している。Limits を利用して、検索する論文のタイプを RCT やレビューなどに限定することが可能である。Clinical Queries では、検索語を治療や診断などの研究カテゴリーや検索感度、システムティック・レビューに限定することができ、批判的に吟味した文献を探すことができる。

IV. まとめ

以上、5 つの EBM 関連データベースの特徴を述べた。

Grandage ら¹⁴は、EBM のための情報の有用性を図 1 のピラミッドで表現した。この図をみると、最も有用なのは The Cochrane Library だが、情報としては最も少なく、反対に、MEDLINE は多くの情報は収集できるが、

有用性は低いとしている。このようにエビデンスレベルの高い情報を探す時は、The Cochrane Library や Clinical Evidence を使い、エビデンスレベルが低くても何らかの関連情報を多く得たい時は、UpToDate や MEDLINE が有用であろう。

筆者ら¹⁰の緊急性の高い SARS などの感染症に関する調査や、Hunt ら¹⁵の疑問に答えるエビデンスへたどり着くまでの時間的調査から、UpToDate には、エビデンスが少なくても、専門家による自分の意見や経験からくる解説があり、また新しい疾患でも何らかの情報が得られるなど、その有用性が示唆された。

各データベースにそれぞれの特徴があり、その利用目的に応じて、使い分けることが必要だろう。

参考文献

- 1) Guyatt GH : Evidence-based medicine. ACP Journal Club 1991 ; March/April : A-16.
- 2) Smith R : What clinical information do doctors need? BMJ 1996 ; 313(7064) : 1062-1068.
- 3) 橋本 淳 : EBM の実践と EBH. 公衆衛生研究 2000 ; 49 (4) : 320-328.

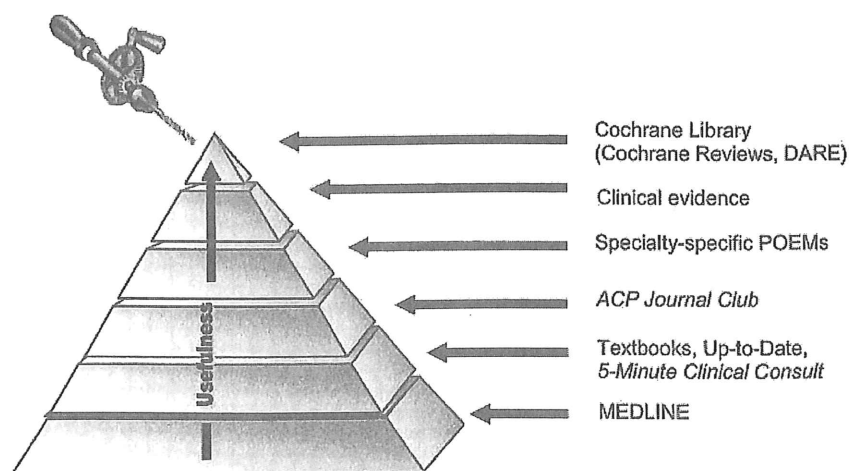


図1 EBMのための情報源の有用性¹⁴

- 4) The Cochrane Library.[引用 2004.9.28].
<http://www.update-software.com/cochrane/>
- 5) JANCOC.[引用 2004.9.28].
<http://cochrane.umin.ac.jp/>
- 6) 阿部信一: 臨床医の EBM 実践のための二次情報源の比較分析. オンライン検索 2002 ; 23 (2/3) : 106-112.
- 7) Clinical Evidence.[引用 2004.9.28].
<http://www.clinicalevidence.com/>
- 8) ACP Journal Club. [引用 2004.9.28].
<http://www.acpjcl.org/>
- 9) UpToDate.[引用 2004.9.28].
<http://www.uptodate.com/>
- 10) 山田知子、阿部信一: EBM 情報源における緊急医療情報への対応. 薬学図書館 2004 ; 49 (4) : inprint.
- 11) MEDLINE Fact Sheet.[引用 2004.9.28].
<http://www.nlm.nih.gov/pubs/factsheets/medline.html>
- 12) PubMed. [引用 2004.9.28].
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/>
- 13) PubMed : MEDLINE Retrieval on the World Wide Web Fact Sheet.[引用 2004.9.28].
<http://www.nlm.nih.gov/pubs/factsheets/pubmed.html>
- 14) Grandage KK, Slawson DC,Shaughnessy AF: When less is more : a practical approach to searching for evidence-based answers. J Med Libr Assoc 2002 ; 90(3) : 298-304.
- 15) Hunt DL, Jaeschke R, McKibbon KA : Users' guides to the medical literature : XXI. Using electronic health information resources in evidence-based practice. JAMA 2000 ; 283 (14) : 1875-1879.